



移行期用教材『We Can!』～平成30年度と31年度の扱い方の留意点 （『We Can! ①』編）

平成30年度と31年度（2018年度と2019年度）の移行期用教材である『We Can!』を扱うにあたり、文部科学省が作成した「移行期間の学習内容案」では、平成30年度の5年生と31年度の5年生では、扱うことが想定されている範囲や配当時間数が異なります。

今号では、5年生向け教材『We Can! ①』を使って指導される際の、扱う時間と扱い方についての留意点を整理し、以下にまとめました。

※『We Can!』は①、②とも、標準配当時間を70時間としてつくられているので、移行期間中、年間70時間よりも少ない時数で扱う場合には、精選して扱う必要があります。文部科学省が例示した「移行期間における学習内容例」では、年間50時間を配当する場合、『Hi, friends! ①』『Let's Try! ②』も部分的に活用しつつ、平成30年度においては『We Can! ①』を5年生の中盤以降18時間で、平成31年度においては34時間で扱うことが提案されています。

参照：<http://mext-next-kyozai.net/>（小学校外国語・外国語活動 平成30年度使用新教材ダウンロード専用サイト）

Unit 1 Hello, everyone. 標準8時間	（アルファベットの大文字をHi, friends! ①のLesson 6やLet's Try! ②のUnit 6で触れてきていることを前提として、）自分の名前のローマ字表記を扱うことにより、アルファベットの読み方を含む自己紹介となっています。年間50時間配当のなかで扱う場合は、平成30年度の5年生は2時間、平成31年度の5年生は4時間で扱う想定となっています。
Unit 2 When is your birthday? 標準7時間	平成31年度の5年生のみ4時間で扱う想定で、アルファベットの大文字を書くことを初めて扱う単元です。これ以降の単元では、適宜、アルファベットの文字を読んだり書いたりすることに慣れ親しませる必要があります。（平成30年度の5年生は、平成31年度の6年次にHi, friends! ②のLesson 2を扱うことで代用されます。）
Unit 3 What do you have on Monday? 標準7時間	教科名を含めて、学校生活について扱います。本来、活字体の小文字を読んだり書いたりする活動を始める単元ですが、平成30年度の5年生は、そこまで踏み込まずに大文字の読み書きの慣れ親しみを優先させることが想定されています。平成30年度の5年生は3時間、平成31年度の5年生は4時間で扱う想定となっています。
Unit 4 What time do you get up? 標準8時間	一日の生活に関わる表現や頻度の副詞を扱う単元です。（平成30年度の5年生は、平成31年度の6年次にHi, friends! ②のLesson 6を扱うことで代用されます。）平成31年度の5年生は4時間で扱う想定となっており、これ以降の単元では、大文字・小文字の読み書きに慣れ親しませる活動を、適宜行うようにする必要があります。
Unit 5 She can run fast. He can jump high. 標準8時間	We Can! ①で新たに導入された三人称he/sheと助動詞canを扱う単元です。また、文字の音に慣れ親しむ活動の糸口として、アルファベット・ジングルの使用も想定されています。平成30年度、31年度ともに5時間で扱う想定となっています。
Unit 7 Where is the treasure? 標準8時間	物の位置を尋ねたり答えたりする表現を扱い、道案内をする単元です。平成30年度の5年生は3時間、平成31年度の5年生は4時間で扱う想定となっており、物の位置を表す表現については、これ以降の単元でも十分に慣れ親しませるように指導者が工夫していくことが求められます。
Unit 8 What would you like? 標準8時間	料理名や、丁寧に注文したり値段を尋ねたり答えたりする表現を扱う単元です。（平成30年度の5年生はHi, friends! ①のLesson 9を扱うことで代用されます。）平成31年度の5年生は、4時間で扱う想定となっており、家族の呼称や、値段を尋ねたり答えたりする表現については、本単元では扱わないこととなっています。
Unit 9 Who is your hero? 標準8時間	得意なことを表す表現を含めて、あこがれたり尊敬したりする人物について紹介する活動を行う単元です。平成30年度、31年度ともに5時間で扱う想定となっています。人物紹介をする活動については誌面では6文、音声スクリプトでは10文が示されていますが、児童の実態に応じて、話す内容は3～4文程度にとどめることとなっています。

※今後、『We Can! ②』の内容についての情報も別途発信を予定しています。

教育出版のWEBサイトでも関連資料を紹介しています。

●「小学校」英語ページから発信します <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

